

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103239		
法人名	医療法人 平田クリニック		
事業所名	グループホーム 東望の里2階		
所在地	長崎市田中町879番地		
自己評価作成日	令和 4年9月25日	評価結果市町村受理日	令和5年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれに合わせた生活リズムをとりながら、残存機能の維持、低下を防ぐため、毎日、リハビリ、体操、脳トレを行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅街にあり、家庭的な雰囲気の中、適度な彩光があり風通しも良く、利用者が本人本位にゆったりと生活できる心地よい環境である。コロナ禍のため、外出やイベント開催、地域との交流等を制限しているが、その中でも関係が途切れないように、地域住民、行政機関、その他社会資源との関係維持に努めている。事業所内での生活が多くなるため、職員が勉強し、レクリエーションの種類を増やし、刺激のある環境づくりに取り組んでいる。日中、利用者はリビングにて洗濯物たたみを手伝ったり、脳トレに臨むのもよし、居室にて一人の時間を悠々自適に過ごすもよしと、自分のペースで過ごしている様子が窺える。母体が医療法人であるため医療的なバックアップ体制が整っており、往診や健診に対応しやすく、要望に応じて事業所内における終末期ケアや看取りの対応ができ本人・家族にとって安心感があり頼れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中で「尊厳を大切に」「家庭的な雰囲気の中で」が含まれているので利用者の個性を生かし生活を考えその理念を共通している。理念は事務所内に掲示している。	「人間としての尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気の中で入居者の個性を生かした日常生活の支援を行います」という理念を掲げ、日々の支援の中で理念が実現出来るように努めている。各階に掲示し、地域密着の意義を含め、職員全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験を受け入れていたが、コロナで中止している	法人で自治会に加入している。コロナ禍において地域行事への参加や中学生の職場体験の受け入れは減少しているものの、地域の商店で食材や事業所における行事用備品を購入する等、地域との関わりを保っている。地域に見守られ、事業所があるという考え方を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して地域の方にどういいう方がいるか認知症の方に対しての理解に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の現状を知ってもらい意見を頂いている	会議は2ヶ月に1回、奇数月に開催しており、構成メンバーの要件を満たしている。コロナ禍である現在は書面により、事業活動やコロナ対策・家族の面会の状況、看取りへの対応についての報告を行っていることが議事録にて確認できる。同時に意見や要望抽出に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉総務課と連絡、相談を行い連携を図っている	介護認定更新や生活保護対応等の際は、市の担当者と必要に応じて連絡を取り合っている。利用者が夫婦で入居する際に、担当課に相談する等、運営上不明な点を問い合わせている。また、行政から研修の案内が適時行われており、職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていない。必要な場合は家族と相談して許可を取り、モニタリングを行います。日々のケアでも拘束につながることをしていないか会議の中で話し合っている	身体拘束廃止に関する指針を作成している。現在、利用者の安全性を考慮し、やむを得ず抑制を行っている事例はない。家族の了解を得た上で設置している離床センサーについては行動パターンを把握するためである。職員は言葉による拘束とならないよう、掛ける言葉には特に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアや入浴、乾燥防止の為にクリーム塗布しているのでその時に確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所していた方が、日常生活自立支援事業、市民後見人制度を利用していたので学んでいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者、家族にどんなことでも話してもらえるように信頼関係を築き意見は記録に残している	利用者とは日常会話で、家族からは訪問時や電話連絡の際に要望等を聞き取っている。家族からの要望は「連絡ノート」に記載し職員間で共有している。現在、コロナ禍で面会制限があるため、家族との連絡は電話が中心となっている。また、苦情や相談受付の窓口は明確である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	資格を取得する事や講習会に参加できるような勤務体制でサポートしている	主にユニット会議や委員会会議の中で職員の意見や要望を抽出している。例えば、行事に関するアイデアや日々の支援の中で、必要な備品購入の要望が出ている他、研修や運営における話し合いを行っている。職員間のコミュニケーションの良さが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や有休がとりやすい環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月ユニット会議で行っている。外部研修も順番に行けるように予定を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族からの情報を職員、ケアマネで集め話し合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者、職員が相談にのっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、サービス支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もやしの根切り、洗濯物たみ、広告紙でゴミ箱作り等日常的な仕事を職員と一緒にする事で役割を持ち、協力して生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、家族へ協力をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで外出していない。	利用者の基本情報の生活歴から馴染みの人や場を把握し、関係継続に努めているが、コロナ禍につき面会や外出を制限している。その中でも玄関にて、ガラス越しでの家族面会や県外在住の家族の面会を特例で認めるなど、関係が途切れないような支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いい関係を築くように楽しく会話できるようなテーブル席の作り方を考えている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていないが、いつでも受け入れは可能		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からホームでの暮らし方の希望や意向を伺い、その方らしい暮らしの計画を立てている	ゆったりとした雰囲気の中で、職員はリラックスしている利用者に寄り添う時間を作り、意向を汲み取っている。困難な場合は、利用者の表情や態度から希望等の把握に努めている。利用者や家族から聞き取った内容は記録し、職員間で情報を共有し支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人の生活歴等の情報を共有し介護計画の見直し等に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人一人の状態を把握しており、その方にあった過ごし方を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、職員が意見を聞きその方らしい介護計画を作成するようにしている	計画作成担当者は、サービス担当者会議において、担当職員や家族等の意見を抽出し、介護計画を作成している。介護計画は、短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を立てている。また、3ヶ月毎にモニタリングを行っている他、利用者の状態に応じた変更にも対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズ、個別ケアに応じて対応するように心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、商店、福祉施設への理解、協力を得るようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を連携し緊急時の対応ができるようにしている	母体が医療法人であるため、専門の診療科について2週間に1度の往診がある等、バックアップ体制を整えている。協力医療機関との関係も密であり、他の診療科を受診する際には職員が通院支援を行っている。薬の変更や症状の変化、受診結果等は記録し、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員に常勤の看護師がおり、母体の病院からも週1回看護師の訪問があり、連携がとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携はとれており院長、看護師と連携とれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できるところを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	院長指示のもと動くようになっている。家族の意向を確認している	利用開始時に利用者と家族に向けて、重度化した場合や終末期対応について指針を説明し、同意を得ている。その後、終末期ケアの要望が出てきた際には、改めて家族や医師と方針を話し合い、同意を得た場合に看取り支援を行っている。常に母体の医療法人のバックアップ体制があることは特長である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院長往診時、質問し勉強している。質問は記録に残し、皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月避難訓練を行っており、消防署や近隣住民への声かけ、夜間、昼間の訓練をしている。設備、マニュアルの確認している	マニュアルを備え、防災・避難訓練を毎月実施している。緊張感を高めるため事前連絡なしで実施することもある。消防署立会いの総合訓練があり、地域住民に協力の声掛けを行っている。また、緊急連絡網や非常食等の備蓄、非常持出品の準備ができています。ただし、訓練後の課題への対応の明確化や夜間想定訓練はこれからである。	防災・避難訓練後に出てきた課題や参加者の感想への対応について検討、取組みに期待したい。また、可能であれば、年1回以上の夜間想定訓練もあることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	決まった時間の食事提供ではなく、利用者の起きた時に食べていただいている。	利用者への声掛けは優しく穏やかな語調であり、本人の人格を尊重することに努めている。個人記録等は所定の場所に保管しており、事業所新聞の写真掲載については事前に同意を得ている。職員とは、入社時に守秘義務に関する誓約書と取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で確認している。意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重しなるべく希望にそった生活を送ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容できてもらい希望の髪型にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嗜好調査をしながら本人の好みに近づけるよう料理を提供している。肉嫌いの方には魚を提供	法人内の栄養士が作成した献立を基に、利用者の嗜好等を考慮し職員が調理している。おせち料理、桃カステラ、おはぎ、誕生日ケーキ等、日常とは異なる行事食を適時取り入れながら、食事を楽しめるよう工夫している。食前には嚥下機能の訓練を目的とした体操を行い、誤飲等の事故防止に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量、水分量は記録を取っている。水分量少ない方には声かけを行い、食事形態にも注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状況で声かけ、見守り、介助を行っている。近隣の歯科と連携をとって訪問してもらい、経過観察、治療を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を作り排尿パターンを確認し、水分量、食事量、チェック表をみてそれにあわせた自立支援を行っています	各居室にトイレがあり、自立している利用者は自室のトイレを利用することが可能である他、ポータブルトイレを使用することもある。自らトイレで排泄することが難しい利用者には職員が支援している。水分や食事摂取量の記録や排泄チェック表をもとに声掛けを行い、誘導し排泄のコントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維、水分を十分に摂取してもらい便秘の方にはトイレで腹部マッサージにより排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1回目は(火、水)、2回目は(水、木)午前中。1人週2回の入浴です	入浴は基本的に週2回としているが、必要に応じて臨機応変に支援している。事業所は、同性介助の希望に沿っている。入浴を拒否している場合や体調の不良等では清拭対応もある。浴室では車椅子利用者も浴槽に浸かれるよう支援しており、脱衣所は暖房完備であり、温度差による身体負担に配慮していることが見てとれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの物や馴染みのある寝具の持ち込みができ、眠りやすい雰囲気づくりを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で確認しており、目的、副作用等、把握している。状況の変化がある場合は医師に連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の飾り作りや個人の力にあわせて、作業してもらい、完成した時の喜びを感じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出していない。健診時に近隣ドライブしている。	コロナ禍で日常的な外出が難しい状況にあるが、通院時に寄り道したり、少人数でドライブしたりしている。事業所建物のベランダが周回できるため、天気の良い日はベランダに出て、外気浴を楽しんでいる。玄関周りに小さな庭園があり、水やりをしたり、季節の花を見て楽しめるように支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は基本的に本人、家族にお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、自由に電話してもらっている。手紙の準備している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けで雰囲気づくりをしている	上下階の各ユニットの配置は同じであり、適度に明るいリビングから外の風景が一望できる。清掃は職員が決められた時間に行っており、気になる匂いや音もなく、利用者は穏やかに過ごしている。リビングでは、洗濯物をたたんだり、脳トレのツールを使う等、ADLが落ちないよう工夫した支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置いて一人になれる場所作りを行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具仏壇を持っておられ、入所に近い状態で生活できるように努めています	各居室は利用者それぞれの個性が見え、使い慣れたテレビやタンス、仏壇の他、思い出となる写真や手紙等が確認できる。室内は職員が清掃し清潔を保ち、換気や温度調整にも配慮している。職員は、利用者が日中リビングで寛いだり、居室にて思い思いの時間を過ごすことができるよう支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、リビングには手すりを設置している。また、ベッドサイド、トイレの中、浴室にコールボタンを設置している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103239		
法人名	医療法人 平田クリニック		
事業所名	グループホーム東望の里3階		
所在地	長崎市田中町879番地		
自己評価作成日	令和 4年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様のこれまでの生活歴を把握し、それぞれの個性を生かし役割を持って生活出来るように支援しています。コロナ禍で外出できないので、レクや楽しみ作りに力を入れており、利用者同士のオセロ、ゲームに参加していただき、笑い声や笑顔がよく見られ雰囲気がとてもいいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中で「尊厳を大切に」「家庭的な雰囲気の中で」が含まれているので、利用者の個性を生かした生活を考え、その理念を共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議「ホーム便り」を配布している。避難訓練時は近隣住民の方に参加声かけを行っている。中学生の職場体験はコロナ感染防止の為に現できていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して地域の方に認知症の事を知って頂く。言動や行動、対応の仕方を理解していただく。介護実習生の受け入れをしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会では実際に施設内であがってくる問題点、取り組みを課題に挙げ、皆さんから様々な意見を頂くことで、今後もサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内での話し合いだけでは解決できないような事例に対して、福祉総務課などに相談し助言をいただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に部署会議にてマニュアルの読み合わせを行ったり、運営推進会議にて身体拘束委員会として毎回現状の報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの把握や読み合わせを徹底している。また独自の介護にならないよう、相手の気持ちを理解しながら、ケアを行うように徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等資料で読み合わせを行っている。実際にご利用者の成年後見人である方に話を伺い、学ぶ機会を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、同意を頂いている。疑問に感じる点があればいつでも相談できるよう、窓口を固定、雰囲気作りに留意している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に要望を書くノートがあり、毎月のユニット会議や全体会議で意見交換を行い、反映に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の個人面談を設けて意向をきいている。資格取得の研修費用の一部負担や積極的に有給休暇が取りやすい環境整備などに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足はないが状況は常に把握し職員の声を聞くようにしている。職員個々の頑張りの評価に努めている。永年勤続者の表彰式があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部、外部研修を行っている。今回実践者研修に1名申し込んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行えていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の情報を職員、ケアマネで共有し、話し合いを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の契約はもちろん、入所後もこまめにコミュニケーションを図り、要望や相談があればいつでも対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行ったうえで、ご本人、ご家族の要望に耳を傾け、現時点で必要なサービスを提供する頃が出来るよう留意している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などのタオル干し、洗濯物たたみ、お盆拭きや他ご利用者様の見守り等出来る事は行って頂き、役割分担が出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会ではご家族時も呼びかけ、準備や進行を一緒に手伝って頂くなどご本人様が楽しい時間を過ごす事が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、電話で現在の生活状況等を伝え安心していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気分よく食事ができて、会話ができるテーブル席の作り方を心掛けている。オセロやレク等ゲームで交流している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていないが、受け入れはいつでも可能。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から ホームでの暮らしの希望や意向を伺い、その方らしい暮らしの計画を立てている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より生活歴等の情報を共有し介護計画に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で何か気づきがあれば日誌に書き留め、ご本人の心身の状態や、能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、職員が意見を聞き、その方らしい介護計画を作成するようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で情報を共有し、介護計画の見直し等に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズ、個別ケアに応じて対応するように心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方、商店、警察、消防、他福祉施設などへ理解と協力を得られるよう働きかけを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の平田クリニックより、2週間に1回往診あり、他の病院受診が必要な時は家族へ連絡し了承を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあった時は2階勤務の看護師へ相談を行い、平田クリニックの看護師長も週1回訪問に来られているので状態報告や処置をお願いしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の平田クリニックの入院施設はなくなったが、他の病院と連携をとるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	R4. 7月に計画的に看取りを行いました。院長、師長、職員、家族と話し合いを行い、協力、連携をとることが出来た。ご家族から感謝のお言葉を頂き安らかな最期を看取ることが出来た。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部署ミーティング時にマニュアルを読み合わせる他、急変時の事例が発生したあとなどには反省を行い、今後の対応を適切に行う事が出来るよう向上を図っている。R4.11にAEDの内部研修を予定している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練は担当者を順番で回して全員が動きを身につけるようにしている。近隣の方へも日時など文章で知らせている。コンセント周辺のホコリとり、トイレ内でコンセント前に物をおかないようにしている。夜間は台所を離れる時はIH電源を切っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけなど、コミュニケーションを図る対応は特に慎重に行っているが、不適切な対応があったと感じた時には会議で議題に挙げ、改善するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴姿勢を大事にしている。言葉にできない方には表情などで様観している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示がはっきりしている方に関しては、ご自分のペースで過ごされていると思う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服、物品などで足りない物に気づいたら、家族にお願いしてもってきて頂いている。また日々の整容に心がけ、服装のコーディネートに気を配ったり、ヘアクリームを使用したりして身だしなみを整えている。髭剃りの声かけ、臥床時髪を整える		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入所者、職員、一緒の時間で同じ空間でいただいている。もやしの根切り、お盆拭きはお願いしている。食材の硬さに注意し、形態もその方に合わせている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量を記録している。本人の状態に応じて栄養補助食品や本人の嗜好に合わせた物をお出ししている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けや介助を行っている。定期的に提携の訪問歯科医が往診に来られ、口腔内の健診やケアを行い、職員にも指導を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し定期的に排泄の声かけ、誘導を行っている。本人からの希望があれば速やかに介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記録し、毎日の食事量や水分量を把握する他に排便3日以上でない方には下剤類の調整を行い、排泄リズムを整えています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月と木、火と金で週2回と決めてはいますが、殆どの方に楽しんでいただけています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの物や馴染みのある家具等の持ち込み、毎朝のベッドメイクで清潔保持に努めているので落ちついてゆっくりと休めていると思う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度の定期薬処方薬は薬剤師の先生の薬剤指導訪問時に受け取り、変更等あった場合は十分な説明を受けている。症状に変化がある場合は主治医に連絡をして指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事、誕生日会、毎日の体操、レクリエーション、軽作業等、なるべく職員一人一人が交流を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は難しいが、桜や紅葉など季節に合わせた行事で 外出することがある。健診時や通院時に少し遠回りしてドライブしたりすることもある		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方にはご自分で管理されているが、基本的には入居時からご家族に管理をお願いしている。希望がある場合は施設側で立て替えて、買い物をしていただく事ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置していて、いつでも自由にかかけられるようになっている。希望がある方は職員が番号を押すなどの支援を行っている。携帯電話持参の方は良く家族と話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な室温を保ち、こまめな掃除を行い、花を飾ったり、生活感のある香りや音などで日常を感じて頂いたりしている。日当たりや眺めもよく、開放的な空間づくりができています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況にあわせて席替えを行ったり、季節に合わせた花を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってこられ、以前の生活に近い状態で生活できるように努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、リビング、手すりを設置している。またベッド、トイレ、浴室には、コールが設置しており、職員が駆けつけることができるようになっチエル。居室は動線を考えての家具配置、居室がわかるように表札を手作りしている		